

「見える」安全活動コンクール

題 材

“熱中症対策室”で熱中症予防を見える化

実 施 状 況

説 明



◆ 概 要

造成工事の現場内に「熱中症対策室」を設置し、熱中症の予防対策を見える化しました。

◆ 内 容

作業場所の近くに、休憩用のコンテナハウスを設置し、熱中症対策の備品を揃えて、「熱中症対策室」と命名しました。

室内にはウォーターサーバーを設置し、自由に給水できるようにしました。

冷蔵庫には経口補水液を保存し、スグに飲めるよう備えました。

WBGT 計とポスターにより、注意喚起を行いました。

◆ 効 果

「熱中症対策室」と表示したことで、作業員の予防意識が高まりました。

必要な機能を集約することで、備品の管理がしやすくなりました。

